

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表  
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満  
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧  
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立松岩小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒988-0122  
宮城県気仙沼市松崎五駄鱈5番地

E-mail : matu-s7@royal.ocn.ne.jp

Website : www1.ocn.ne.jp/~matsuiwa/

児童生徒数：男子 194 名 女子 192 名 合計 386 名  
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（福祉 )

#### 4. 活動内容

##### (1) 1年間の主な活動内容について

<b>テーマ</b> 「共に生きていく社会」について考える学習 — 主に防災教育関連の実践を通して —
--

##### 1 本校のESDでめざすもの

###### (1) ESDのねらい

自分と地域の人や自然環境，歴史や産業との関わりやつながりが分かり，「共に生きていく社会」について考え，かつ，よりよい社会を共につくっていかうとする児童を育てる。

###### (2) ESDで育てたい力 ※本校で特に重視する能力・態度は囲み字

能力及び態度	ESDで目指す児童像
① <b>問題解決力</b> ，思考力・判断力 ② 批判的思考力（クリティカルシンキング） ③ 多面的・総合的な思考力（システム思考力） ④ 未来像を予測した計画力 ⑤ <b>他者と協力する態度</b> ⑥ <b>コミュニケーション能力</b> ⑦ つながりを尊重する態度	(1) 課題をもち，進んで探究する子ども (2) 互いに協力する子ども (3) 進んでコミュニケーションできる子ども (4) 学んだことを発信し，実践できる子ども







##### 2 今年度のESDの概要（防災教育の内容について）

###### (1) 実践の概要

本校のESDは，生活科・総合的な学習の時間をメインフィールドに実践している。防災教育においても，ESDの視点に基づいて次の3点を目標に学習内容の改善を図った。

- ① 防災意識の高揚（多面的・総合的，批判的思考力）
- ② 震災後の地域環境を生かした復興の取組への理解  
（他者と協力，つながり，コミュニケーション）
- ③ 他者と関わり，共に生きていく社会の形成者としての思い（未来予測，主体的な参加）

###### 生活科・総合的な学習の時間「ふれあいタイム」の活動内容（防災教育関連）

学年	単元名	主な学習内容	重視する能力・態度	活動の様子
1	がっこうだいすき	・校舎内や学校の周りの道路にある安全に暮らすための物（井戸や備蓄倉庫など）を探し，安全に気を付けて生活する。	・自ら進んで参加する態度	
2	どきどきわくわく町たんけん	・「こども110番」の家や店を知り，地域の人々が自分の安全を守ってくれていることに気付く。	・つながりを尊重する態度	
3	防災名人をさがそう	・震災時に地域の人々を助けるために活動していた防災名人にインタビューし，壁新聞を作り意見交流をする。	・コミュニケーションを行う力 ・他者と協力する態度	
4	環境レンジャー出動—災害時にできること—	・地域の環境問題と自分の生活との関わりを考え，自分たちにできることを実践する中で，災害時にもできることや活用できるものについて理解する。	・批判的に考える力 ・他者と協力する態度 ・自ら進んで参加する態度	
5	防災マップを作ろう	・東日本大震災で被災した場所を知り，そこから自分や家族が安全に避難できる方法を考え，自分の家の防災マップを作る。	・多面的，総合的に考える力 ・未来像を予測して計画を立てる力	
6	防災を考えよう	・災害時の対応策について調べ，自分たちにもできることを実践する。また，活動を通して分かったことをリーフレットにまとめ，地域に発信する。	・自ら考え行動しようとする態度（気仙沼市教育研究員設定）	

###### (2) 今年度，特に工夫・改善したこと

- ① 学年間のつながりを意識しながら，防災教育計画を体系的なものに改善を図った。また，高学年では，気仙沼市の「防災学習シート」を活用して，教科との関連を図りながらESDの視点に立った防災教育を推進した。
- ② 防災教育の実践に基づき，上記の3つの目標を中心に地域の復興を担う人材の育成を目指してESDで重視する8つの能力態度を育成できるよう活動プログラムの検討を行った。

### 3 ESD における成果と課題

#### (1) ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

##### ① 成果

- ・生活科・総合的な学習の時間のテーマを「共に生きる」とし、地域の様子やそこに住む人についての過去や現在のことを調べたり、様々な体験をしたりして、「共に生きていく社会」（人とのつながり・地域）と「共に生きていく未来」（気仙沼市・日本）について考えていく学習を計画し実践することができた。
- ・各学年の実践を効果的につなげていけるよう、発達段階や教科との関連を考慮したプログラムの体系化を図ることができた。
- ・東日本大震災の教訓を生かして、防災教育のコンテンツを取り入れたプログラムや活動の改善を行うことができた。

##### ② 課題

- ・防災教育の内容を盛り込んだ震災後の活動プログラムがより体系的なものとなるよう、一層のプログラム内容の改善を行っていく。
- ・各教科や領域との関連を充実させ、より実践的でESDで必要とされる能力の向上や行動に結びつくように活動プログラムの質を高めていく。

#### (2) 指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

##### ① 成果

- ・公民館と協働し学校から地域に対して学びの成果を発信したことで、学校の取組に対する理解が深まり、協力が得られるようになってきた。
- ・学年PTA行事や参観日を利用し、防災マップ作りやサバイバル飯炊きなど親子での共通体験や交流を行ったことで、保護者の意識を変えたり高めたりすることができた。
- ・地域産業に携わる人々や地域の歴史を伝えてくれる人々の協力を得て、人とのつながりを意識しながら地域の特徴について理解させることができた。また、人々の地域を大切にすることを受け継ぎ、地域を愛する心を育み未来へ展望を育むことができた。

##### ② 課題

- ・現在、協力を得ている人々や協力機関とのつながりを大切にするとともに、多様な児童の課題に対応するため一層の人材や教材の開発を行っていく。
- ・ESDで重視している能力・態度を学年や単元ごとに具体化して、ねらいをより明確にして活動を展開する。
- ・学習を通じて得た考えや思いなど、発信や交流の内容や方法をより吟味していく。

#### (3) 育てたい資質・能力に対する児童の変容、評価の視点から

##### ① 成果

- ・地域を誇りに思い、自分ができることを実践したり、周りに伝えようとしたりするなど、問題解決を図ろうとする態度が見られるようになってきた。
- ・地域の人々や保護者など他者との関わりを通して、表現力やコミュニケーションの力が身に付いてきた。
- ・グループ学習の中で、他者と協力する態度が育ってきた。

##### ② 課題

- ・ESDで重視している能力・態度を生かした形で評価ができる具体的な方法を検討していく。

### 4 今後のESDの方向性

- (1) より体系的なプログラム構成に改善したり、教科や他領域との関連を図ったりすることで、児童が既存知を生かした主体的かつ探究的な学びが展開できるようにする。
- (2) 生活科を中心に児童の五感を刺激して知的感受性を高めたり、総合的な学習の時間の探究活動を通じて批判的思考力や多面的思考力を育成したりできるような体験学習の在り方を追究する。
- (3) 児童の課題解決の方法として、インタビューやアンケートなど、コミュニケーションや人との関わりを大切に課題解決方法を一層取り入れていく。
- (4) 家庭、地域（公民館との連携）等に対して、児童の考えを発信する機会を確保する。また、保護者や地域の意見・思いを聞く機会を作り、それを取り入れて学習の深化・拡充を図る。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）